

(第3種郵便物認可)

# 彩人伝

## 循環型農業で利益証明

日本はチッ素やカリウムなど膨大な量の化学肥料を輸入し作物を作っているが、生ゴミを大量に捨てている。「捨てずに肥料にする循環型農業の仕組みを作りたい」という思いから、白岡市で有機質肥料を活用した農業を実践する一方、農業参入コンサルタンとと農産物卸販売の2社を設立した。

大学の工学部を卒業し、大手電子部品メーカーに5年勤めた。農業とは無縁だったが、2001年に経営コンサルタンと会社に転職したことが転機となった。

食品廃棄物を肥料などに活用する食品リサイクル法が施行された時期で、生ゴミを堆肥にする取り組みに出会い、化学肥料一辺倒では土壌微生物のバランスが崩れることを

農業コンサルタント 山田浩太さん 40 (白岡市)



ネギの出来具合を見て回る山田さん。「野菜と話ができれば」と笑う(白岡市で)

農業参入コンサルタント会社「アルファイノベーション」代表取締役。1974年、バンコク生まれ。自宅は都内だが、ネギ畑のある白岡市に通勤している。

記者から 農林水産省によると、植物の3大栄養素のうち化学肥料のリン、カリウムの原料となるリン鉱石と塩化カリウムは全量輸入だ。化石燃料を原料にするチッ素も輸入に頼っている。日本人の「食」の基盤はかなりもろいのではないかと感じた。食料だけではなく、肥料を自給する必要性も痛感した。

知った。

食品廃棄物や家畜のふんを原料にした有機質肥料の工場ができて、化学肥料が普及している現場ではなかなか使ってもらえないことが分か

った。

「利益が出ることを証明するしかない」と自ら試験栽培を決意。06年から10年にかけて最初は市民農園で、その後は水戸市の農業栄養専門学校

の協力で規模を拡大し、小松菜や大根、トウモロコシなどを栽培。味がよく日持ちする野菜が育った。

12年からは、白岡市で農業参入コンサルタントと農産物

卸販売の2社をつくり、鶏と牛のふんの堆肥を使ってネギ栽培を始めた。現在は約4畝の農地で、計約300坪の青ネギと白ネギを大手外食店などに毎日出荷している。

障害者の就労を支援するためNPO法人も同じ頃に設立、障害者13人が白岡市の農場で出荷作業などをしていく。「将来は会社に携わる人の健康のため、コメも作りたい」と構想を広げる。

(福島聡)